

平成 2 4 年度学校関係者評価報告書

愛媛県立宇和島水産高等学校

| 評価実施日 | 平成 2 5 年 2 月 2 6 日 (火) | |
|--|---|--|
| 評価・提言等 | 提言等に対する改善方策等 | |
| <p>1 今年度の評価について</p> <p>(1) 学習指導</p> <p>ア 家庭学習時間において、平日については昨年度と変わらないが、考査中の学習時間が前年に比べて増加したことは好ましい傾向である。更に、平日の学習時間が増える工夫をお願いしたい。</p> <p>(2) 生徒指導</p> <p>ア 身だしなみについては、水産高校だけが良くない場面も見ることがある訳は無い。自由を履き違えている生徒もいて、困難なケースもあると思うが、根気強い指導をお願いしたい。</p> <p>イ 自転車については、学校から離れたところで並列を見る。また、信号待ちで広がって歩行者の妨げになっている場面もみるので、マナーの指導の充実をお願いしたい。</p> <p>ウ 現場実習に来る生徒は、挨拶もでき、礼儀正しい。制服が、チューニックで目立つ部分があるが、チューニックに誇りを持って着用する指導をお願いしたい。</p> <p>エ 退学は、高校生活への不適応が主な理由だが、水産高校魅力をもっと伝えて、辞めない生徒を一人でも多くして欲しい。</p> <p>オ 体罰と感ずるかどうかは、個人がどう感じるかが境目となると思うが、体罰はいけないという前提で、まずは生徒とよく話し合っていたきたい。</p> <p>(3) 進路指導</p> <p>ア 評価はDだが、求人票の減少等、厳しい状況の中、高い就職率であり、よく進路指導をしていただいていると思う。</p> <p>イ 水産研究センターには、水産高校を卒業した愛媛県のエースの研究者がいる。是非、後に続く人材を育成していただけたらと思う</p> <p>ウ 水産高校に入学したら、3年後の出口を見据えた進路指導の更なる充実をお願いしたい。</p> <p>2 説明・公表について</p> <p>(1) 「人権だより」から、活発に活動されている様子が伺える。今後も生徒が主体となった活動を続けていって欲しい。</p> <p>(2) 新聞やテレビで本校生の活躍が取り上げられており、部活動や地域との連携、学校での生徒の活動の様子を知ることができてよい。</p> <p>(3) 学校の生徒指導の方針等が保護者に十分に理解されていないように感じる。保護者に理解もらえるよう工夫をお願いしたい。</p> <p>3 学校運営への意見・提言</p> <p>(1) 水産食品科と宇和島の食材を利用した商品開発中である。今後も地域に根ざした水産教育を柱とした学校教育を展開していただきたい。</p> <p>(2) 「マリンマイスター」の認定を受けた生徒がいる等、頑張っている生徒が多くいるように思う。目的・目標を持たせ、充実した学校生活を送る生徒の教育に努めていただきたい。</p> <p>(3) 水糟介在展示活動は、来院者の方に大変喜んでいただいている。このようなボランティア活動を通して、地域に貢献する充実感等を育てて欲しい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力定着のために新たに「計算力テスト」を導入する。 ・「資格」は学習への動機付けとなっているので、進路課との連携を一層強めるとともに海技士等の資格取得のための個別補習（放課後）を行う。 ・身だしなみについては、家庭の協力も得ながら、その都度指導すること等を通して、社会生活において場・状況に応じた服装をすることの大切さを指導していく。規範意識を高める指導を継続していく。 ・自転車のマナーについては、命に関することでもあり街頭や校門での意識啓発に努める。 ・水産高生である自覚と誇りを持たせるとともに規範意識の向上の指導に努める。 ・独特の行事等の楽しさをタイムリーに伝えていく。 ・高校生活とはどういふものかを早い段階から考えさせ、学校生活を充実させるためのアクションを起こさせるように努める。 ・体罰は、人格を否定し憎しみしか生まれないことを自覚し、ポイントを抑えた叱り方を考え、実行する。 ・データを蓄積することにより不合格の原因を特定していけるようにする。 ・基礎学力の向上と欠席をなくす指導を更に行っていく。 ・学習した内容に関連する職業が合格率が高いので、面接指導等を通して職業選択の指導をしていきたい。 ・大学進学希望生徒には模試等、他校と同じ土俵で指導していく。 ・役割を持たせ、達成感を味わえるような委員会活動の運営を行う。 ・HPや水高だより等を通して、生徒の活動、活躍を伝えていく。 ・家庭訪問や保護者会を通して、また、保護者と密な連絡をとることにより保護者方の理解を深めていく。 ・教育的視点に立った地域との連携活動に努めていく。 ・自己理解を深めさせるとともに水産業や自分の将来、進路について考えさせ、目標を持たせ、それに向かって努力していく生徒の育成に努める。 ・人の役に立てる喜びを味わわせる機会を多く作る。 | |